

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	可	
授業科目名	保健医療情報組織学			科目履修	可	
科目番号	S 0 1 0 0 1	クラス番号	C 1 (学部合同)			
授業形式	講義	必修選択区分	看護：必修／放射：選択			
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	原美弥子	そ の 他				
担当教員	原美弥子、大澤真奈美、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱美					
授業の概要	集団を対象とした健康状態に関わる情報の収集・組織化の方法を統計的知識・技術を含めて学習する。また、これらの知識・技術を活用して演習を行い、群馬県民及びわが国の保健医療に対するニーズを査定し、保健医療システムの現状及び課題を把握する方法を学習する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：情報の収集・組織化の方法理解を前提とし、群馬県民およびわが国の保健医療に対するニーズ(ヘルスニーズ)と保健医療システムの現状を学習する。</p> <p>目標：1. 地域集団の健康に関連する情報の収集、アセスメントおよび組織化の方法を統計的知識・技術の活用をとおして理解する。</p> <p>2. 地域の健康状態・健康問題の構造からヘルスニーズの査定、保健医療システムの現状・課題を把握する方法を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	地域における健康・医療情報 －情報と統計、人口動態統計	講義	毎回、学習課題を提示	原	
	2	地域の健康問題の構造(1) －死因、疾病罹患の率、年齢調整死亡率				
	3	地域の健康問題の構造(2) －地域の保健情報				
	4	地域の健康問題の構造(3) －調査方法、標本と母集団				
	5	地域診断－プリシード・プロシードモデル				
	6	地区ヘルスニーズの査定(1) －地区の健康課題のアセスメント				
	7	地区ヘルスニーズの査定(2) －地区の健康課題のアセスメント				
	8	集団検診の原理と方法(スクリーニング)				
	9	保健統計演習(1)	演習			原
	10	保健統計演習(2)				塩ノ谷
	11	保健統計演習(3)				鈴木
	12	保健統計演習(4)				飯田
	13	保健統計演習(5)				大澤
	14	地区ヘルスニーズの査定(3) －地区の保健活動の評価と分析	講義			原
15	地区ヘルスニーズの査定(4) －地区の保健活動の評価と分析、まとめ					
評価方法	レポート(20%)、テスト(50%)、出席(30%)から総合的判断で評価					
教科書	福富和夫、橋本修二 著 『保健統計・疫学』 南山堂 厚生統計協会 編 『国民衛生の動向』 厚生統計協会					
参考書 参考文献等	大木秀一 著 『基本からわかる看護統計学入門』 医歯薬出版(株) 平野かよ子 編集 『最新 保健学講座 地域看護学総論② 地域診断と保健福祉対策』 メヂカルフレンド社					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	否
授業科目名	保健医療チーム連携論 I			科目履修	否
科目番号	S01002	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	上原真澄	そ の 他			
担当教員	中西陽子(看護学部責任者)、吉富美佐江、加藤栄子、関根正、廣瀬規代美、狩野太郎、鈴木美雪、上原真澄(診療放射線学部責任者)、河原田泰尋、保科正夫、柏倉健一				
授業の概要	保健医療チームにおける多様な職種の役割を把握し、人々の健康の維持・向上を目指し協働する意義と方法を学習する。災害時、国際感染症発生時、国際紛争時など様々な状況下における保健医療チームの役割と連携の実際を学習し、関連専門職者の専門性を尊重し、効果的に協働するための基本的態度を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：対象の健康問題の解決・回避に向けて医療従事者が協働する意義と方法を学習する。</p> <p>目標：1. 保健医療チームにおける多様な職種の役割を把握する。 2. 災害時、感染症発生など、さまざまな状況下における保健医療チームの役割と連携の実際を理解する。 3. 保健医療チームの各人が関連専門職者の専門性を尊重し、効果的に協働するための基本的な態度を理解する。 4. 保健医療チームの連携により人々の健康の維持向上を目指し、協働する意義と課題を見出す。(演習)</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	・保健医療チームの定義・論理および歴史と現状 ・保健医療チームの4つの要素と関係	講義	・毎回、講義課題を提示	上原
	2	・救急外来・集中治療部門の保健医療チーム連携の実際 ・病院における安全管理に必要な保健医療チーム連携	講義		鈴木
	3	・緊急被ばく医療に関する保健医療チームの必要性 ・救急医療における保健医療チーム連携	講義		河原田
	4	・医療安全管理のための取り組みと保健医療チーム連携 ・医療事故防止に向けた保健医療チーム連携の実際	講義		加藤
	5	・地域の健康危機管理における保健医療チーム連携	講義		大澤真
	6	・緩和ケアにおける保健医療チーム連携	講義		中西
	7	・放射線治療における保健医療チーム連携	講義		保科
	8	・放射線検査における保健医療チーム連携 ・保健医療チーム連携の在り方・良いチーム連携	講義		柏倉
	9	学内演習(1)：オリエンテーション	演習	・課題テーマ決定と情報収集 ・課題テーマ(9)の情報収集と要約 ・レポート作成	河原田 保科 柏倉 吉富 加藤 関根 廣瀬 狩野
	10	学内演習(2)：保健医療チーム連携の実際	演習		
	11	学内演習(3)：保健医療チーム連携の実際	演習		
	12	学内演習(4)：保健医療チーム連携の実際	演習		
	13	学内演習(5)：保健医療チーム連携の実際	演習		
	14	学内演習(6)：保健医療チーム連携の実際	演習		
	15	学内演習(7)：保健医療チーム連携の実際	演習		
	・15回のうち、1回から8回までオムニバス方式による講義を行う。 ・9回から15回は講義内容に沿った保健医療チーム連携の9課題(担当：上原、河原田、保科、柏倉、吉富、加藤、関根、廣瀬、狩野)について演習(各演習室)を行う。				
評価方法	授業・演習の出席と態度および課題レポートを総合的に評価する。				
教科書	必要に応じて資料を配付する。				
参考書 参考文献等	特になし				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	否
授業科目名	保健医療チーム連携論Ⅱ			科目履修	否
科目番号	S01003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 前期 Semester	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	上原真澄	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮 (看護学部責任者)、看護技術学・生涯発達看護学・地域健康看護学・機能看護学准教授・講師、上原真澄 (診療放射線学部責任者)、放射線画像学・放射線治療学・放射線管理理学准教授・講師				
授業の概要	関心のある専門領域を選択し、実践環境に身を置きながら対象となる個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けた他職種との連携・協働の実体を体験する。また、学習した成果を統合し、専門性の異なる職種が医療チームとしてより効果的な連携を実現するための課題を理解する。学生5～6名に対し、専任教員1名を配置し、授業前半は、テーマに沿った演習、後半は、演習内容を検証するための実習とする。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：保健医療チームを構成する多様な職種・機能を調整する意義と方法を学習する。</p> <p>目標：1. 実習前学内演習を通し、テーマへの理解を深め、参加観察実習に向けたグループの準備状態を整える。</p> <p>2. 参加観察実習を通し、保健医療チーム連携の実際を理解する。</p> <p>3. 実習後学内演習を通し、個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けた、より効果的な保健医療チーム連携を実現するための課題やその多様性を理解する。</p> <p>4. 個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けて、より効果的な保健医療チーム連携を実現するために学習を継続する必要性を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	学内演習①：全体オリエンテーション 実習グループに分かれて演習	演習	・チーム連携テーマの設定 ・テーマの理解、観察実習の準備	上原 巴山 各担当 教員
	2	学内演習②	演習		
	3	学内演習③	演習		
	4	臨地実習①：実習フィールドにおける参加観察	実習	・チーム連携の 実際を理解	
	5	臨地実習②：実習フィールドにおける参加観察	実習		
	6	臨地実習③：実習フィールドにおける参加観察	実習		
	7	臨地実習④：実習フィールドにおける参加観察	実習		
	8	学内演習④：まとめ・発表準備	演習	・チーム連携 実現のため の課題整理 ・自己評価	
	9	学内演習⑤：Ⅰ・Ⅱ限：グループ発表 Ⅲ限～：レポート課題作成	演習		
<p>実習初日は教員が提示した専門領域を参考にしながら5～6名で1組のグループを作り、各グループごとに保健医療におけるチーム連携のテーマを設定する。</p> <p>実習前学内演習を3日間、参加観察実習を4日間、実習後学内演習を2日間行い、実習期間を7月末の2週間で9日間行う。</p> <p>各グループの発表を通じて個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けて、より効果的な保健医療チーム連携実現するために学習を継続する必要性を認める。</p>					
評価方法	実習態度、グループ発表の内容、レポートなどにより総合的に評価する。				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	各グループごとに資料等を配布する。				
備 考	実習日程は実習先などの都合により担当教員の判断で変更する場合がある。				

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	可
授業科目名	保健医療システム開発論			科目履修	可
科目番号	S01004	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	看護：選択／放射：必修		
開講時期	4年次 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	下瀬川正幸	そ の 他			
担当教員	下瀬川正幸、堀謙太、巴山玉蓮、加藤栄子、北爪明子				
授業の概要	保健医療システムの変遷と現状ならびに現在、開発されている最先端の保健医療システムの実践を学習する。また、モバイル医療や遠隔医療などの地域における保健医療ネットワークの構築や、資源の育成・活用方法の実践など新たな保健医療システムの開発に必要な基礎的知識を学習し、人々の健康問題の解決に向け保健医療システムを開発する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：最先端の技術を開発・活用し、人々の健康問題解決に向け保健医療システムを開発する目的と意義を理解する。</p> <p>目標：1. 保健医療システムの変遷と現状を理解する。 2. 保健医療システムが有効に機能するためにネットワークが重要であることを理解する。 3. 最先端の保健医療システムの実践を理解する。 4. 人々の健康問題の解決に向け、保健医療システムを開発する意義を見出す。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	保健医療システムの変遷	講義	毎回、学習課題を提示	巴山
	2	現代の保健医療システム			巴山
	3	保健医療システムを機能させるための基礎知識			加藤
	4	医療情報システムの実践(1) -病院内外における医療情報システムの構築-			加藤
	5	医療情報システムの実践(2) -電子カルテシステム-			北爪
	6	医療情報システム概観			下瀬川
	7	医療情報システムの導入			下瀬川
	8	医療情報の標準化			下瀬川
	9	IHE入門			下瀬川
	10	医療情報の分析とEBM			下瀬川
	11	保健医療システムと情報通信システム			堀
	12	遠隔医療システム(1) -遠隔医療の概念と遠隔画像診断-			堀
	13	遠隔医療システム(2) -リアルタイムの遠隔医療システム-			堀
	14	モバイル医療システム			堀
15	授業のまとめ	演習	最終レポート	下瀬川 堀 巴山 加藤 北爪	
評価方法	筆記試験及び課題レポート80%：出席率20%				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	OECD編著：世界の医療制度改革 質のよい効率的な医療システムに向けて，明石書店 日本医療情報学会医療情報技術育成部会編：新版 医療情報 医療情報システム編，2009， 篠原出版新社				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	可
授業科目名	保健医療国際連携論			科目履修	可
科目番号	S01005	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	3年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	巴山玉蓮	そ の 他			
担当教員	巴山玉蓮 小倉敏裕 山崎達枝 青野結希子 齊藤和香子 竹村範江				
授業の概要	この授業においては、国際的に活躍するわが国の保健医療専門職の活動の実際や諸外国における保健医療チームの活動の特徴や連携の実際を学習する。また、これらの学習を通し、保健医療専門職として国際的に活動する意義を理解する。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	<p>目的：人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対して、保健医療チームの一員として貢献する意義を明確にする。</p> <p>目標：1. 国際保健医療協力の歴史と現状を理解する。 2. 国際保健医療協力に関わる保健医療職者に求められる能力を理解する。 3. 国際保健医療協力の課題を検討する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	国際保健医療(1) －国際保健医療協力の意義と必要性 －国際保健医療協力の歴史の変遷	講義	毎回、学習課題を提示	小倉 巴山
	2	国際保健医療(2) －国際保健医療を提供する機関 －国際保健医療における保健医療専門職の活動	講義		小倉
	3	技術協力の意義と実際(1) －診療放射線技師としての技術協力	講義		小倉
	4	技術援助の意義と実際(2) －看護職としての技術協力	講義		齊藤
	5	緊急援助の意義と実際(1) －緊急援助を必要とする状況 －災害救援・対策	講義		巴山
	6	緊急援助の意義と実際(2) －紛争地域における難民への支援 －保健衛生・医療・福祉増進	講義		巴山
	7	海外の保健医療活動に必要な注意事項	講義		小倉
	8	国際保健医療協力の実際(1)看護師としての活動	講義		青野
	9	国際保健医療協力の実際(2)国際救急援助	講義		山崎
	10	国際保健医療協力の実際(3)国際災害援助	講義		
	11	在日外国人への支援の意義と実際	講義		竹村
	12	国際保健医療協力の課題(1)：グループ形成 国際保健医療協力の課題(2)：テーマ決定と情報収集	演習	資料収集	小倉 巴山
	13	国際保健医療協力の課題(3)：情報収集と要約	演習	資料収集・要約	
	14	国際保健医療協力の課題(4)：発表準備	演習	発表準備	
15	国際保健医療協力の課題(5)：発表と質疑応答	演習	レポート		
評価方法	レポート(100%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	<p>小早川隆敏編著：国際保健医療協力入門－理論から実践へ 国際協力叢書，国際協力出版会，1998.</p> <p>日本国際保健医療学会編：国際保健医療学 第2版，杏林書院，2005.</p> <p>丸井英二，森口育子編：国際保健・看護，弘文堂，2005.</p> <p>国際看護研究会編：国際看護学入門，医学書院，1999.</p> <p>NPO 災害人道医療支援会 (HuMA) 災害看護研修委員会：グローバル災害看護マニュアル－災害現場における医療支援活動一，真興交易，2007.</p>				
備考	特になし				